

令和5年10月27日

国立大学法人一橋大学長
中野 聡 殿

国立大学法人一橋大学
学長選考・監察会議議長 屋敷 二郎

国立大学法人一橋大学長の業務執行状況の確認について（通知）

このことについて、国立大学法人一橋大学学長選考・監察会議による、対象期間（令和4年4月1日～令和5年3月31日）における結果概要を下記のとおり通知いたします。

記

（1）学長のリーダーシップの下、学内外の様々な関係者の意見を聞きながら、指定国立大学法人構想の推進、ソーシャル・データサイエンス学部・研究科の設置、研究力・国際的プレゼンス向上、及びダイバーシティ推進への取組を進めるなど、その業務執行状況は適切であると認められ、特に評価できるものとしては以下が挙げられる。

- ①指定国立大学法人構想の進捗などについて文部科学省からの指摘を受け、本学が直面する課題を徹底的に自己分析したうえで、大学改革の加速に取り組み、**2023年3月に指定の継続が認められたこと**
- ②ソーシャル・データサイエンス学部・研究科の設置に向けた準備を進め、設置認可されたこと
- ③研究専念型の若手教員を国際公募で採用するプロジェクトの推進、国際業績給制度の見直し、及び研究センターの設置・集約等をはじめとする全学人事ガバナンスの強化による人材の獲得戦略の実行と既存教員を活性化する取組を行ったこと
- ④学長による **SIGMA** 学長会議及び世界の大学連合「U7+」の学長会議といった国際会議等への参加等により、国際ネットワークの維持・拡大及び教育研究プロジェクトの活性化につなげ、それらの活動を積極的に発信していること

⑤ダイバーシティ推進の取組について、理想とするジェンダー、年齢構成及び外国人比率を決定し、全学人事ロードマップを策定・公表するとともに、人件費を補助する制度の導入等の施策を行うことで、各部局での採用活動を後押しする取組を進めたこと、また、一層の多様性向上のため、新たにダイバーシティ担当副学長を置き、改組により「ダイバーシティ推進本部・推進室」を設置したことに加えて、「ダイバーシティ・エクィティ&インクルージョン推進宣言」を発出したこと

(2) 全学的な支持を受け、大学改革を進めていくためにも、以下の点に留意しつつ、今後の大学運営を進めていただきたい。

①学長としての考えを教職員とのコミュニケーションを通じて丁寧に議論して学内に浸透させるとともに、学問の多様性の確保に配慮しながら、改革をよりスピード感をもって進めることを期待する。

②国内外の大学との競争の中で、大学改革に伴う教職員の負担軽減に配慮しながら、教育研究環境の向上や人への投資を通じて、優秀な人材の確保に向けた取組に期待する。

③博士（後期）課程における就職率及び QS 世界大学ランキングの中期計画指標については目標値を下回っており、さらなる課題の分析及び取組の推進に向けて努力していただきたい。

以上